

# 地域発 ↓ 男女共同参画社会をめざして 13

## 次世代育成は 社会全体で

出席者

北野京子 (高松市PTA連絡協議会事務局長)  
 中橋恵美子 (NPO法人わははネット理事長)  
 真鍋未希 (耳鼻咽喉科医師)  
 進行 久保公子 (本誌編集部)

— 今日私は、初めて本州と四国を結ぶ瀬戸大橋を渡って高松にお邪魔しました。まず自己紹介をお願いします。

**北野** 私は徳島県生まれで、結婚して1年目に夫の転勤で高松に参りました。当初は専業主婦だったので子どもが小学校に入学して、気が付いたら子ども会やPTAの役員をしていました。その関係で、教育委員会の社会教育主事というお話をいただき、教員免許を持つていたのでお受けしました。その2年目、1997年に、高松市PTA連絡協議会の事務局を担い、2003年からは事務局長をさせていただいています。

私が初めて男女共同参画という言葉を知ったのは01年です。たまたま香川県で開かれた男女共同参画基本講座に申し込み、男女平等やジェンダーについて学びました。

同時期にNPOにも関わるように

なり、高松市にあるボランティア市民活動センターの立ち上げから参加しています。今は民間委託になり、その委託先のNPO法人にも関わっています。また、香川県の男女共同参画学習アドバイザーネットワークの一員になり、研修会等でファシリテーター(調整役)としてお手伝いするようになりました。

— 社会教育主事になられるまで仕事の経験はなかったのですか。

**北野** 大学を卒業してすぐ家庭に入りました。子どもを持つのも早かったので、子ども会やPTAの役員になったらいつも一番年下で、様子がわからないから何でも言われるがままにやってきました。今思えばありがたいことです。そのお陰で社会教育主事の声もかけていただけただけです。

**中橋** 私はNPO法人わははネットという子育て支援組織の理事長をし

ています。「わははネット」は08年で11年目に入りました。私自身は中2、中1と小3の3人の子ともとも夫の5人家族です。夫は町内会も一緒にの幼なじみで、今は会社経営をしながら、地元の柔道場で指導をしています。県外で結婚、出産の経験をし、地縁血縁のない地域で初めて育児をする不安とストレスが活動の原点となりました。

— そこで香川県に帰ってきてからは、同じように子育てをしている人たちの仲間をつくり、活動を始めました。子育ての不安感や閉塞感情報は情報不足から来ていると感じたので、まずは情報誌『おやこDEわはは』をつくりました。親子の集いの「ひろば」事業も始めて5年になりました。

**真鍋** 耳鼻科の医師になったのが13年前で、信州大学で知り合った同級生の夫と一緒に私の実家のある高松に帰ってきました。こちらで最初4

年間仕事をして、その後、夫の地元東京に行って子育てをしながら働き、07年の2月に下の子、双子を出産して、08年4月にまたこちらへ帰ってきて、実家の医院で父と一緒に働いています。とにかく今は仕事と子育てに精一杯の状態、社会的なことは何もやっていません。下が1歳9カ月で、上が小学4年生。ようやくこちらの生活に慣れてきたところです。

高松で教育を受けたのは中3から高3までの4年間だけで、生まれ育ったのは横浜です。大学時代の6年間は松本、そして東京での生活が7年間と、他の土地で暮らした期間が長いですね。

### ■子育てと男女共同参画

— 男女共同参画という言葉に惹かれたのはどういうことからですか。

**北野** 専業主婦だったので、家庭のことや子育てに関わることは私がすべてするのが当たり前と考えていました。夫を立てて従うのが正しい理想的カプルだとも思っていました。パートで働き出しても、夫を職場まで車で送っていき、帰って自転車に乗り換えて自分の職場まで行って、



夕方は子どもの送り迎えと、あまりにも大変だったので、夫に「職場が近いのでバイクで行って」と頼んでも駄目でした。逆に夕食の準備がまだできていないと叱られました。



北野京子氏

こんなに一生懸命頑張っているのに私がすべて悪いというのは、いくらなんでも違うのではと思っていた時に、男女共同参画基本講座に参加したのです。本当に理解できるまでには時間がかかりましたが、長年何か問題があるたびに自分自身を責めてきたことがそうではないと気がき、とても心が晴れました。自分の置かれている状況が、家庭内での人権侵害の最たるものであり、私も人間として夫と対等な関係で生活していいのだとわかり、私のような女性が社会の中で誰にも相談できず、辛い気持ちを引きずっているケースがたくさんあることも知りました。

真鍋 　　うちは家庭内では完璧な男女

共同参画です(笑)。どちらかというところ、麻酔科医の夫のほうに私に合わせていて、非常勤医師として週に3日だけ働いて、残りの日は子育てと家事や雑用をしてくれています。

2人が同じ日に仕事をしているのは月曜と水曜だけです。私が育児に専念していた産後は夫が全面的に働いていました。今のような働き方は初めてです。ワーク・ライフ・バランスを考えた時に、2人ともフルタイムで働きながら子育てにも時間を取りたいというのはなかなか無理があります。子どもたちとしっかり関われる時間は今しかないのです、仕事をセーブしてでも生活を犠牲にしない方法をと考えて出した結論です。

女性医師の状況を見ると、まず産休、育児がほとんど取れていません。私自身、出産前後の1年余りの休業期間はどの身分保障もありませんでした。たとえ常勤職員として働いていても、産休を取ろうにも代わりに医師が来ない。結局そのポストを置いておくことができないので、辞めるしかない。また、夜間休日の当直もあり、子育てをしながらの当直は厳しい。妊娠中でも当直をしているのが現状です。当直では、連続30時

間以上の勤務が当たり前のように行われています。医師免許があつて男女差別がなく、仕事に戻ろうと思えば他の職種よりは戻りやすいという強みはありますが、逆に子育てをしながらも男と同じだけ働かなければならない。周りに迷惑をかけられないという意識があつて、日本では権利を主張したり団結したりしない。悔しい思いをしながら現場を離れる女性医師が少なくないというのは、社会的にも大きな損失です。最近はややく医師不足の報道が増えてきたので、短時間であれば働ける医師たちをもっと活かす体制を整えてもらいたいですね。

特に、私より上の世代は本当に大変で、家庭の事情で仕事をあきらめた方が少なくありません。同年代の女性医師はほとんど仕事を続けていますが、子育て中は一時的に非常勤の仕事をしたりしています。同級生は4割が女性でした。これからは女性医師を無視しては医療が成り立たないでしょう。

——北野さんが言われたNPO法人はどんなグループですか。

北野 高松市ボランティア市民活動センターを委託するためにつくった

中間支援型のNPO法人で、「高松市民活動応援団」といいます。そこが今、ボランティア市民活動センターを運営しています。指定管理者とは違います。また高松市にある男女共同参画センターは指定管理者で運営されていますが、その前段階で、「女性センター」と言われていた時の委託先であつた高松市男女共同参画センター登録団体ネットワークでも昨年まで活動していました。これがNPO法人になってからは中橋さんが関わっておられます。

また、自分が学んだことを、PTAをはじめ関わりのある場で活かせればと思ひ、活動しています。しかし残念なことに、香川県には「女性センター」がありませんから、高松市男女共同参画センターがほぼ香川県の拠点となり、高松市外の人たちにも利用されています。

——男と女は平等なんだ、自分だけが悪いんじゃないということがわかって、北野さんのご家庭や周囲の皆さんの生活は少しは変わりましたか。

北野 実は私は離婚しました。子育てをする中で、子どもに辛い思いをさせたくないというのが一番ありました。今までは従来の固定観念、



形にすぐこだわっていたように思  
います。それがあることをきつかけ  
に家を出て、長男と2人で暮らし始  
めたら、子どもの表情がすごくよく  
なったのです。結局父親と一緒にい  
たくなかったのです。あの家の雰囲  
気が嫌だったと聞いた時に、家族と  
いう形にこだわりすぎていたことに  
気付きました。家族の形態や生活の  
仕方はいろいろでも、家族皆が楽し  
く穏やかに暮らしていけるのであれ  
ば、周りはそれを認めなければいけ  
ないだろうと感じました。一つひと  
つ違って当たり前ということがやつ  
と理解できました。

離婚は私が経済的に自立できるま  
で待ちました。子どもが働き始めた  
のと、実家の父の援助にも助けられ  
ました。また、男女共同参画のさま  
ざまな勉強会や研修会でも相談や質  
問をしました。夫の知人に「家を出  
る」と話したら、「お前は地獄に墮  
ちる」と言われたこともありませ  
う。それが女性が家を出ると言った時の  
現実なのかとつくづく感じました。  
一方で、励ましもたくさんありま  
した。前和光大学教授の船橋邦子先  
生にはご指導・ご助言をいただいで  
おります。高松市PTA連絡協議会

では、各学校の女性役員約100名  
対象の研修会を毎年開催し、船橋先  
生には5年間にわたりご講演いただ  
き大変好評です。今、私たちが子育  
てをする中で本当に必要なことは、  
どのように社会が変化しようとも自  
ら学び、自ら考え、判断し、行動し、  
社会の一員として実践できる「生き  
る力」をつけることでしょう。この  
研修会を通じて学習しています。

——そういった話は、父親たちにも  
聞いてもらったほうがいいのではな  
いですか。

北野 父親対象のはまた別に設けて  
います。とにかく子育てというのは、  
人権感覚が大切と感じています。子  
どもの安全と保護者の安心につい  
ても、男女共同参画や人権意識が関わ  
ってくるのです。そこをところを考  
えて、講師の先生を選択しています。

### ■病児保育施設開設に向けて

——中橋さんは日常的に若い母親た  
ちと接していらつしやいますか、い  
ろいろと相談されたりしますか。

中橋 私たちが接している母親たち  
は20代後半、団塊ジュニアです。両  
親が共働き家庭で育っていて、夫も  
不安な雇用の中、共働きを夫からも

望まれているケースが多く、比較的  
男女が対等です。しかし、夫の残業  
が多く、家事協力をアテにできない  
といった環境は何とかしないとけ  
ない。子どもが熱を出して保育園か  
ら呼び出されても、妻が迎えに行  
くのが当たり前といった風潮がありま  
すから。そこで、企業の子育て支援  
のアドバイザーとして入り込むよう  
にしています。



中橋恵美子氏

10年前に情報誌を創刊した時には、  
読者の母親たちからたくさん励ま  
しの手紙が届きました。子どもを保  
育園に預けて仕事に就いたが、再々  
保育園から電話があつて、子どもの  
調子が悪く、迎えに来てほしいと言  
われた。職場に頭を下げて早退し、  
保育園の先生に叱られて謝り、医師  
にも叱られて謝り、家では帰宅した  
夫に話をすると、「何で朝から会社  
を休まなかったのか」と責められ、  
私はこんなに一生懸命子育てをして、

一生懸命働いているのに、どうして  
頭を下げてばかりなのか。そういう  
手紙が心に突き刺さって涙が止まり  
ませんでした。これは何とかしな  
てはいけない。社会的に期待されて  
いるし、それに応えなくてはいいけ  
ないという使命感に燃えました。

それで調べてみたら、当時、病児  
保育施設は香川県には1カ所もな  
かったのです。そこで病児保育の資料  
を集め、さまざまな人の話も聞き、  
行政に働きかけることにしました。

まず、情報誌のインタビューとい  
う形で、県知事に直接かけ合うこと  
にしました。県庁の秘書課に電話を  
しても、専業主婦のグループはな  
かなか相手にしてもらえない。たまた  
ま知事が会合であいさつして帰られ  
るエレベーターに駆け込んでお願い  
し、インタビューが実現。ベビーカー  
とともに知事室に入ったのは私た  
ちが初めてです。そして、子どもが  
病気の時は両親がすぐに休める社会  
であってほしいが、取りあえず病児  
保育施設が欲しいと要望しました。  
それから7カ月後に香川県内第1号  
の病児保育所ができました。  
真鍋 わが家も9月から10月につ  
けて双子が水ぼうそうになり、私が休



める日は休み、夫がいる日は夫が、母が空いている日は母がと、3人交代で看ましたが、延べ10日ぐらいは保育園に行けないので、1日は病児保育に行かせてもらい、とても助かりました。

**中橋** 多胎児支援の活動も行っています。実は昨日も会合に行ってきたのですが、双子、三つ子の家庭の離婚率が他と比較すると高い。夫が協力してくれないために育児に悩み、離婚するケースが増えていきます。この支援を何とかしようという話になっています。

### ■小でないとから変革を

——男女共同参画社会実現のためには何をすればいいでしょうか。

**中橋** 例えば学校でお使いが配られ、保護者の名前を書いて提出することがあります。そのほとんどは妻が記入しますが、夫の名前を書きます。夫の名前を書かずに自分の名前を書いたら、一人親家庭みたいに思われるからです。あの欄を「保護者」とせずに「記入者」とすれば自分の名前を書くのではないのでしょうか。また婚姻届を出す時に、窓口の人は必ず、「この姓にするのはお2人で相

談して決めましたか」と聞くようにするなど、男女共同参画の普及啓発事業をたくさんするよりも、ちょっとしたことを変えていくだけで効果があると思います。

**真鍋** 私は事実婚なので、夫婦別姓です。そうするに当たって、誰も反対しませんでした。私は自分の姓を変えたくなかったし、相手に変えてもらいたくありませんでした。子どもの姓をどうするかはじゃんけんで決めました(笑)。上の子の時は私が勝ったので真鍋姓、下の双子は順番なので夫の姓になっています。

——お子さんは友だちから何か言われたりしませんでしたか。

**真鍋** 言われましたよ。「何で違うの、何で結婚しないの」って。「結婚しているけど、名前は変えてないんだよ」と友だちに言ったら驚かれました。でも、他の保護者や先生方からは、あつさり受け入れられている気がします。

夫婦別姓が法制化されると言いながら、全然進まないじゃないですか。でも実生活では困らない。配偶者控除を受けられないだけです。生命保険などもお互いに相手が受取人になっていますし、住民票も一緒にな

っています。住民票には「妻(未婚)」と書かれています。戸籍もそれぞれが筆頭です。夫婦別姓がかったいいとか、人に勧めようとかいうのはなくて、職場で旧姓をそのまま使っている延長のようなものです。

——「わははネット」では具体的にどのような活動をしていますか。

**中橋** 最近よく取り上げてもらえるのは全国子育てタクシー協会です。私は4年前からその事務局をしています。「ひろば」に来ていたお母さんが2人目を出産する時にタクシーを呼びました。誰の手助けもなく不安な中で、2歳の子どもを抱えて、荷物を持って階段を降りた話を聞きました。そこで、ドアツードア、24時間稼働のタクシーが子育てにやさしい乗り物になれば、子育て環境が改善されるのではないかと思い、タクシー会社に呼びかけました。そして賛同した会社のドライバーを子育てタクシードライバーとして養成しています。現在、17都道府県に57社、養成された運転手が約650人。こうしたアイディアは、自分が困っているからこんなことがあったらいいなということから生まれました。0歳から3歳までの子どもと親が

集える「ひろば」は行政委託と民間委託で4カ所ありますが、親子で遊びに来るので1カ所30組程度が集まります。

イオンモールの「ひろば」は日によって違います。50〜100組ぐらいです。これはイオングループに働きかけて生まれました。

**結局、企業へのアプローチの仕方だと思っています。私たちは企業でもなく、まったくのボランティアでもありません。中間的な位置付けで取り組んでいます。子育てタクシーはまさにその会社のタクシーに乗りたいと選びます。子育てタクシー会社自体は手間がかかって大変ですが、会社のイメージが上がって売り上げにもつながり、会社も喜びます。母親たちも、足ができてよかったですと喜ぶし、それをサポートする私たちは仕事になってよかったです。皆が得をするウィンウィンの関係になります。そうした形での企業を巻き込んだサポートができればと思っています。**

### ■変わる、変えられる体験を

**中橋** 病児保育施設は、もちろん私たちの働きかけだけでできたのでは

ありません。しかし、その働きかけが私自身のためになりました。社会的活動に興味もなく、活動をしたこともなかった私たちに、団塊世代の印刷会社の社長は言いました。「君たちは成功体験とか、世の中が変わるということを知らない世代だ。でき上がった社会に生まれているから、自分で変えられるということを知らない」と。それだけに病児保育施設ができた時はすぐうれしかったですね。社長が言っていたことはこれだったんだと思いました。私たちは子連れで何にもできないと思っていたけれど、子どもがいるからこそできたじゃないかと。やればできる、言え変わると思えました。自分の活動、考え方が変わったのはそれからです。

——これからまた新しいことを考えていらつしやいますか。

**中橋** 今、日々やっていることを正直にやってみようというものが一つです。子育てをしている人が道を歩いているのに釘が刺さってつまづいたら、その釘を打って、次の人がつまづかないようにしていこうという、その繰り返しです。

また、ITを使った事業にも力を

入れています。コミュニティ・ビジネスとかソーシャル・ビジネスについて最近ヒアリングが行われていて、特に子育て支援や福祉は行政がするものと思っていますが、行政がだんだん気が利かなくなってきたいます。その上、市民も行政がして当然と要望を出し過ぎて、自助でやる部分をやらなくなってきた。そこで市民グループも事業家にならなければいけない。がっぽり儲ける必要はありませんが、本当にいい活動は事業としてやらないと継続しないし、広がりません。まして子育て支援だったら子育て中の母親のほうがいいアイデアがあるし、いいサービスマネジメントがあるはずなんです。

### ■子どもにける予算の増額を

——子どもたちを取り巻く環境は厳しいものがありますが、PTAの取り組みはいかがですか。

**北野** 子どもたちの周辺で何か事件が起った時はマスコミでセンターシヨナルに取り上げられ、保護者に対してはパッシングや厳しい意見が向けられ、子どもたちが問題行動を起したりするのは、やはり家庭に問題があると言われます。家庭が崩

壊していると言う場合は、たいてい母親を指しています。

でも本当はそうではない。私の母の時代であれば、うちは農家ですから、母は私を出産する前日まで畑に出て仕事をしていました。私を出産してすぐに、また畑で働きますから子育てをしていますが。祖母が面倒を見てくれたのです。昔はそういう環境が多かった。若い者は仕事をしなさい、それをできない人が家事と子育てをするというのが当たり前だったと思います。また少し前のサラリーマン世代は、専業主婦に子育てを任せつきりにしました。

今は夫の収入だけでは生活できないために夫婦共働きが当たり前なのに、子育てはそのまま母親が担ってしまう。これは社会が押し付けてしまった環境です。だから、一生懸命頑張ろうとしている母親ほど辛い思いをしています。

また、子どものことに関して、何でも家庭や親に任せてしまうのはおかしい。なぜかと言えば、親にとつて子育ては初めての経験です。初めての親が完璧に子育てなどできるわけがありません。子どもと一緒に泣いたり笑ったりしながら、手探りで

やっています。そこに何が必要かと言えば、周りの支援、ネットワークを組んださまざまなサポートです。そうしたものがあつて子育てはできていく、子どもと一緒に親も育っていくのです。家庭力とか親学とか言われますが、それはちよつと違うと思っています。

今は格差社会で、裕福な層と貧困層がある。でもどんな子であれ、どんな家庭であれ、教育は機会均等はもちろん、学ぶ楽しさが平等に感じられなくてはいけない。今の学校は、先生方が忙しすぎて子どもと向き合えない。基礎学力についての議論はあると思いますが、必要最低限、人として社会に出て生きていくために知っておいたほうがいいということさえわからない子どもたちがたくさんいます。やはり生きていく中で、ここまではどの子も必ずできるようにし、それを楽しく学んでいけるよう、国はちゃんと保障しないといけないと思います。

**中橋** 国の少子化対策は、目の付け所はおかしくないし、諸外国のことも学んで一生懸命考えていると思いますが、とにかく子どもにけるお金が少なすぎる。世界から見ても異





真鍋末希氏

常に少ないでしょう。そして、私たち市民自身があまり政治に期待していないために、選挙に行かないからいい人を選べない。政治家は子育てや子どものことをわかっている人がいないから、予算配分がうまくいかない。本当に悪循環になっていますね。こんな状態では、手を変え品を変えて、小手先でやっていくしかないのです。

それから施策がコロコロ変わるのも問題です。何か新しいことがあつ

たらすぐにそれに飛びついてやるうとしますが、長期計画でやっていかないとダメですね。特に教育、子育ては、行き当たりばつたりの施策では絶対に無理です。政治家や官僚の中で自分の子どもを公立の小中学校に通わせた人がどれだけいるでしょう。彼らは公立の小中学校の現状をわかっているのです。

### ■未来を担う子どもと母親のために

最後に、これから取り組んでいられることをお話してください。

真鍋 小さいお子さんの診療が非常に多いのですが、常にお母さんの立場に立つて診療しようと心がけています。お母さんが困っている、辛く思っていることをいつも意識しながら仕事をしています。子どもを診る時、お母さんと会話をしますが、お母さんの気持ちに楽しかったと思ってもらえるようにしたいですね。決してお母さんが傷つくようなことは言わない。それぞれに事情があるのですから。いずれは診療以外のことも何か社会のためにしたいとは思っています。また具体的には考えていません。

中橋 抽象的ですが、私は感度とセンスを磨けるようにアプローチしたいと思っています。もう一つは、やればできるという感覚を、今の若いお母さんたちにも実感してもらいたい。変わるんだ、変えられるんだという実感です。そういう経験ができるステージを見つけてきつかけを提案したいですね。

そのためには私自身が楽しく生き生きと行動することです。変われるモデルを作らなくちゃ。実は先週、「わははネット」が総理大臣賞の「第1回子どもと家族を応援する日本」功労者に選ばれました。これによって地方でも変えていけるのだと皆に思ってもらいたいですね。私は何にも専門性があるわけでもないし、しいて言えば「お母さん業界」です。子どもを育てているという背景だけで十分勝負ができる、十分変えていけるというインパクトを持っていたいと思います。

北野 みんな自分の子どもが一番大切です。そのためには周りの子どもたちも大切にしないとダメですね。そうなる地域や学校での環境をよくくしないといけないでしょう。保護者の皆様には、広い視野を持って子

育てをしていただきたいです。

PTAは、学校の応援団でありたいと思っと思っています。そのための情報発信基地であり、子育てお悩み相談室であり、研修の場でありたいです。また、PTA活動で培われた保護者の皆様のスキルを社会の中で活かせる場所をつくりたいですね。せっかくPTAで頑張ったことを、次の社会、子どもたちのために役立ててほしいと願っております。

——未来の人材を育てるための、希望の持てるお話を伺いました。ありがとうございました。

(08・11・25 於高松市内真鍋耳鼻咽喉科医院)

### 香川県のデータ

総人口	1,002,897人	女	521,294	08.12.1現在
		男	481,603	
世帯数	389,850世帯			08.12.1現在
労働力人口	522,456人	女	223,315	05.10.1現在
		男	299,141	
労働力率	60.0%	女	48.8	05.10.1現在
		男	72.3	
県選出国會議員数	5人	女	1	09.1.22現在。選挙区のみ
		男	4	
地方議員数	409人	女	28	07.12.31現在
		男	381	